



公民館  
インスタグラム



FUJIMMACHI\_COMMUNITY\_PLAZA

# ふじみ町 公民館報

No. 738

令和7年 2/1

発行 富士見町公民館  
編集 公民館報編集委員会  
TEL 0266(62)7900  
FAX 0266(62)7611

〒399-0211

長野県諏訪郡富士見町富士見 3597-1

コミュニティ・プラザ内 富士見町公民館

ホームページ：https://www.town.fujimi.lg.jp/site/kouminkan/

Eメール：kouminkan@town.fujimi.lg.jp

コミ・プラ マスコットキャラクター  
「ホッポ君」



## 令和7年1月12日 二十歳を祝う会



### 高原晴雨

科学の世界で活躍している若者が、どのようなキッカケで科学の世界を目指したかを紹介するNHKの番組「科学の扉、開けちゃいました。」を見た。「何気ない日々にと好奇心が芽生えたことはありませんか」と問うナレーションで始まる番組で、7人の科学の扉を開けた以下のような「ステキな好奇心」が紹介されている。「小学生の時に、母が『あの山と同じ大きさだよ』と言った巨大な客船を見て、あんなに大きい物がどうやって動くんかと思った」「中学生の時に壁に這うツタを見て、なんで壁に張り付いているのかな。くっついてるのって面白い」「中学生の時に細胞分裂の話聞いて、倍々に増えていく事が体内で起きている」「小学生の時に風はどこから吹いてくるのだろうかと思った」「レモン電池を作った時に、電気は見えないので、見えない世界ってどんな世界」「雷の光と音が届くまでの時間に差がある理由を祖父に聞いた」「テレビで見た面白い蟹・キンチャクガニで頭が一杯になった」等の科学の扉を開いた瞬間が紹介されている。科学の扉は小中学生の時の好奇心とそれを育む環境が開いているのではないかと思う。

富士見町図書館でも「科学の扉」と題する科学遊びを年4回開催している(前述のNHKの「科学の扉」の7年も前に企画し、開催に漕ぎつけた図書館の先見性と努力に感謝)。万華鏡、光の箱、コマ等の工作に加えて、シャボン玉、パズル、迷路、不定形積み木や組木等を楽しんでいる。昨年は、製材や工芸品の製造過程で廃棄される沢山の不定形木片(端材)を使った工作会が好評であった。何を作るかは自ら考え、鉄砲、人形、タワー、怪獣、クワガタ、未来の車、ブレスレット、滑り台等の傑作が作られた。他の端材工作会への参加者も含めると40人位の作品を見たが、同じ作品はなかった。子ども達の豊かな創造力や多様な発想には驚くばかりである。幸いにして、町内には端材を提供してくれる企業もあり、沢山の子ども達に自由工作を楽しむ機会を提供したいと願っている。科学の扉を開く手助けには至らないが、科学(物づくりに興味を持つキッカケになる事を願って。

赤坂行男

目次 P2～5【特集】  
P6 図書館・博物館コーナー

井戸尻考古館

建館50周年第2弾  
記念事業・関連イベント

10月号特集記事で取り上げたように、今年度建館50周年を迎えた井戸尻考古館では、半世紀の節目の年として、様々な記念事業・関連イベントを企画しました。そこで、今回は開催された記念事業・関連イベントをまとめて紹介します。

「井戸尻」とは？

「井戸尻」という地名の由来を知っていますか？いつ頃から呼ばれるようになったのかは不明ですが、井戸尻遺跡発掘のきっかけを作った考古学者 藤森栄一氏の著書の中にそれに関わる文章があります。

「八ヶ岳の編笠と西岳、それと峰の松目（二五六七メートル）の三つは吸水性が強く降った水は、一〇〇メートルと九〇〇メートルの断層まできて噴出する。これが井戸である。（中略）井戸尻というのは井戸の尻にあるという意味である。」

オリジナル缶バッジの製作

イベント会場ではオリジナル缶バッジが配布され、各イベント日に缶バッジをつけて井戸尻考古館・歴史民俗資料館に来館すると、入場無料という特典がありました。



7種のオリジナル缶バッジ

建館50年の日トークイベント

高見俊樹さん・三上徹也さん  
『その時、僕は「高校生」！  
〜地歴部員も掘った曾利遺跡〜』

4月30日（火）  
井戸尻考古館

当時、高校生として発掘調査に参加していたお二人から、思い出や秘話など貴重なお話を伺いました。諏訪清陵高校地歴部員だったお二人は、曾利遺跡の第5次発掘調査（考古館建設地）に参加されたことで考古学への興味関心がさらに高まり、長野県考古学会でも著名な研究者となられ、現在も活躍されています。

大型連休の谷間の平日夜にもかかわらず、多くの方が参加されました。



左から高見さん・三上さん・小松館長

アートパフォーマンス

「混沌の首」  
「縄文・火と大地の記憶」

8月3日（土）  
井戸尻史跡公園

密教系芸術集団「混沌の首」による前衛的なパフォーマンスが繰り広げられました。共同代表の羅入さん（美術家・高野山真言宗僧侶）と石川雷太さん（現代美術家）の他、音楽家、ダンサー、舞踏家、役者の皆さんの音楽演奏と舞踏により、人の根底にある生と死をテーマとした表現がなされました。



日没後に焚かれた火



「混沌の首」によるパフォーマンス

黒と赤の衣装、鉦や太鼓の音、そして、焚かれた火の情景には、太古からつながる不思議な感覚が呼び起こされるようでした。

『縄文にハマる人々』  
映画上映・トークセッション

& キッズDay

8月24日(土)

井戸尻考古館・井戸尻史跡公園

野外上映会の予定でしたが、天気が不安定のため、考古館内での上映会となりました。山岡信貴映画監督と小松館長とのトークセッションも開催されました。

監督によると、縄文を熱く語る人がおもしろいと、全国各地の考古館を巡って、夏休みの自由研究をしている感覚で撮り始め、ドキュメンタリー映画になったとのこと。弁護士が縄文の美しさを、陶芸家は製作意欲が掻き立てられるというように、登場する人々がそれぞれ自分の人生や価値観と縄文文化を重ねて語っている姿が映し出されています。



お話される山岡監督(左)



監督のサイン入りDVD

また、富士見町商工会による縄文人の生活文化を現代風を楽しむ「縄文キッズDay」も同時開催となりました。町内外からの親子連れ中心とした参加者が紙粘土で縄文土器を作ったり、貫頭衣を着て遊んだりして、縄文文化に触れる体験を楽しみました。



土器づくりを楽しむ子ども

50周年講演会

『カジの木の遙かな旅』

—日本の衣—

講師 北村皆雄さん

(映画監督・プロデューサー)

9月21日(土)

コミュニティ・プラザAVホール

北村さんは沖縄・韓国・ヒマラ

ヤ・チベットなどアジアを中心に数多くの作品に携わり、独自の「映像民俗学」を開拓されてきた方です。新作ドキュメンタリー映画「倭文(しづり)旅するカジの木」の制作過程での調査内容の紹介からクワ科の植物カジノキの歴史や文化についての詳しい話がありました。



梶の葉

『日本書記』には、天上から遣わされ、地上の邪悪なものをみな平定した二柱の武神が勝てなかった星の神を織物の神(倭文)が征伐するという神話があります。この神話に潜んでいる「衣」衣服」というものが持つマジカルな力の謎を解き明かすために、衣服の始源を担った「カジ

の木」のルーツを遡り、古代の日本人が衣服に込めた力を探る知的好奇心に溢れたドキュメンタリーとなっています。

クワ科の植物カジノキは中国南部原産で、遺伝子分析の結果、日本には中国と台湾の2ルートで伝わって来たことが判明したとのこと。

衣は人間を護る第2の皮膚として存在し、生から死まで人間の根源を支えてきました。その衣の原初の布の素材として、カジノキから作られた織布と不織布に分かれ、不織布には織物以前の樹皮布(タパ)があります。南太平洋諸国では今でも日常的に木や石で叩いて伸ばし、タパを作っています。

日本では織物として発展し、樹皮から紡いだ糸には白くつやがあり、その白い輝きは日の光の象徴とみなされ、カジの木は神の依りつく「神の木」とされました。

『万葉集』の中でも有名な歌に

春過ぎて夏来たるらし

白妙の衣干したり天の香具山

があります。

「白妙」は「白袴」とも書き、「袴」(たへ・たく)はカジノキの古名です。「春が過ぎて夏が来たらしい。純白のカジの衣を干している天の香具山よ」とカジノキの樹皮繊維から織った白い布を干した情景が歌われています。

映画の中では、4人の織物作家さんがそれぞれの倭文を仕上げていく姿も描かれています。



染められた布  
織られた白布



樹皮布(タバ)



模様をつけた樹皮布

北村監督が海を渡って、中国・台湾や南太平洋の島々へも出向き、日本各地に倭文の痕跡を求めたお話から、古代の人々の思いに心寄せることができました。

**落合康介&台原縄文音楽祭**  
**井戸尻遺跡inデーノタメ遺跡・**  
**フレンズ**  
**音楽交流会**

11月4日(月)  
井戸尻史跡公園

デーノタメ遺跡は埼玉県北本市に所在する縄文時代中・後期の集落遺跡です。遺跡名は「デーノタメ」と呼ばれる湧き水によるため池があったことに由来しています。集落と水場の二つがセットで残る遺跡は大変珍しく、今年度10月に国指定史跡に指定されたそうです。そこで北本市で活動されている台原縄文音楽祭アーティストの皆さんにより、両遺跡の記念の年を祝った音楽交流会が行われました。

秋晴れの午後、予定時間をかなり過ぎていても、集う人々が急かすこともなくのんびりおしゃべりを楽しんでいたら、いつの間にかシタール(北インド発祥の弦楽器)の演奏で始まりました。  
引き続き、モンゴルの楽器、馬頭琴を緩やかに奏でる演奏者を丸く囲み、静かな音色を楽しみました。小学校国語の教科書にも載っている『スーホの白い馬』で有名な馬頭琴の実物を目の当たりにし、その美しい造形と音色に惹きこまれました。まるでモンゴルの草原にいるように感じました。



馬頭琴



馬頭琴の演奏

井戸尻考古館学芸員の副島さんとデーノタメ遺跡の発掘調査に関わった北本市教育委員会文化財保護課の磯野治司さんによるトークセッションも行われました。「水」という共通の資源がある二つの遺跡のそれぞれの特徴や今後の調査研究にも関わる貴重なお話を伺うことができました。

**祝 国指定史跡 決定!!**  
**「デーノタメ遺跡」**

令和元年10月11日、北本市の「デーノタメ遺跡」が国指定史跡に指定されました。北本市に国指定の文化財が生産するのは、大正11年に「石戸遺跡」が指定されて以来、実に97年ぶりです。  
日本を代表する縄文時代の遺跡の一つとなった「デーノタメ遺跡」を、未来へと大切に守り伝えていきましょう。

**デーノタメ遺跡とは?**  
デーノタメ遺跡は、大宮市内の川尻川の支流の傍から集落に広がる、縄文時代中期から後期の集落遺跡です。中期の縄文遺跡「落合遺跡」で、遺跡の範囲は約1ヘクタールです。遺跡跡地に発見された後、発掘調査を継続してきています。  
平成20年の発掘調査の結果によって、縄文時代中期から後期の集落跡と見られるようになりました。縄文時代中期から後期の集落跡と見られるのは、「デーノタメ」と呼ばれる湧き水によるため池の存在です。縄文時代には豊富な水資源であったと考えられています。遺跡跡地の「デーノタメ」とは、このため池の名前が由来になっています。

**デーノタメ遺跡の特徴は?**  
デーノタメ遺跡の大きな特徴は二つです。  
①1つ目は、5,000年前の中期集落が「落合遺跡」4,000年前の後期集落も規模が大きく、1,000年間にわたって継続して存在したことです。  
このため、縄文時代の中期から後期の集落の連続性の中で見ることが出来ます。  
②2つ目は、集落の広がる自然の下に植物遺跡が豊富に存在することです。植物遺跡は人の生活で、身元は残るだけでなく、縄文時代の生活様式、食生活、生活の営みなどまで分かる貴重な資料として残っています。  
集落の生活の様子や生活様式は、縄文時代の生活の様子を詳しく、この遺跡の大きな特徴なのです。

発掘調査報告書  
発掘調査報告書  
発掘調査報告書  
発掘調査報告書

デーノタメ遺跡のパンフレット

各地から集まった縄文文化に魅せられ、井戸尻考古館大好きな人々による熱い語らいが繰り広げられました。

**座談会**  
**「集え、井戸尻を愛する者たちよ!」**  
**みんなで語ろう。**  
**これまでの井戸尻**  
**これからの井戸尻**



棒まきパンを焼きました

その後の一連のパフォーマンスは言葉がなくても、人は思いを共有できるという不思議な体験でした。最初は良くわからずに戸惑っていた観衆も小枝や薪を打ち鳴らし、一緒に音楽を創っていく、それに合わせて踊る女性の優雅で大胆な姿にも圧倒されました。  
ゆったりと、時間も空間も超越して、縄文の世界を堪能することができたひとときとなりました。

まずは、「これまでの井戸尻」。口火を切った学芸員副島さんの、「第一印象は、とにかく寒かった！」との言葉に笑いを誘われ、それぞれの井戸尻との出会いや思い出話が続きました。

毎週のように、考古館に来館しているという山梨の方、ハスの花に惹かれて考古館も訪れるようになり、すっかり頭が井戸尻化してしまっただという方というように、次々と話し出されました。

また、縄文人だったらどうするだろうというように考え、縄文人の気持ちになって料理することをフィードバックとしているという料理人の方、土器に描かれたカエルと月に込められたメッセージを想像し、自身もカエルをたくさん描くようになったという画家の方等、それぞれの仕事や生き方にまで触れて語られました。

そして、関係なかった人たちが連鎖していくおもしろい現象が生じている。つまり、井戸尻考古館が人を繋いでいるという事をみんな再認識できたようでした。

後半の「これからの井戸尻」では、新館建設に向けての思いや希望が出されました。

「他の考古館とは違う異端とも言われるのは実は進んでいて、世間がやっと追い付いているのではないか

とも思うので、井戸尻考古館の独自性は保ったまま進んでほしい」という意見が出されました。

『物を見せる』だけではなく、『人の生活を見せる』『人が近い』という井戸尻考古館の良さをこれからも大事にしてほしい」という思いを語る方もいました。

「縄文人だったら、どんな考古館がよいか？」という視点も考えながら、「みんなできつつっていく井戸尻考古館」という大きな期待に溢れた座談会となりました。

座談会では、井戸尻考古館を支える団体からの発言もありました。

### 【井戸尻応援団】

令和元年5月号の特集記事で詳しく取り上げた、井戸尻考古館の環境整備や魅力発信のために活動されている団体です。コロナ禍でもYouTube発信をされていたそうです。

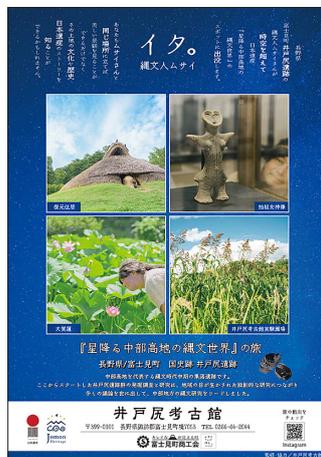


井戸尻応援団のパンフレット

### 【富士見町商工会】

令和2年6月号の特集記事で取り上げましたが、富士見町商工会でも縄文文化で町を活性化しようと取り組まれています。

今年度は、考古館と連携して「イタ。縄文人ムサイさん」事業を進めています。富士見町商工会縄文人キャラクター「ムサイさん」が井戸尻遺跡だけでなく、八ヶ岳山麓周辺市町村の遺跡へ旅するポスター作りに取り組んでいます。



### あとがき

富士見町に住むようになって30年以上になりますが、井戸尻考古館に関心が向くようになったのは、つい最近です。施設があること、発掘により貴重な発見があったことは何となく知っていました。あまり身近には感じていませんでした。縄文文化への関心の高まりと共に考古館職員の皆さんの努力により、広く周知されるようになったことは喜ばしいことです。建館50年、そして、新館建設へ向けてという節目を迎え、富士見町民の多くの皆さんにも興味を持っていただき、さらに後世へ繋げていけたらと願います。

### 【取材協力】

- 井戸尻考古館
- 井戸尻応援団
- 富士見町商工会

### 【参考資料】

- 『縄文の八ヶ岳』
- 『倭文(しづり)旅するカジの木』
- オフィシャルガイドブック

# 『こんなふうに 鳥と人は暮らしてきた』

～鳥猟の歴史と現在につながる鳥類調査の役割～

開催期間 令和7年2月8日(土)～3月23日(日)

※最終日は午後3時まで(入館は午後2時30分まで)



かつて、日本ではカスミ網やトリモチなどを使って鳥を獲る猟が行われていました。カスミ網の使用が禁止されるまで各地で行われた様々な猟を記録した写真を展示するとともに、ドキュメンタリー映画「鳥の道を越えて」監督 今井友樹氏と富士見町在住の鳥の研究者 西教生氏がかつての鳥猟の世界と人との暮らしの関わりを紹介します。



## 図書館 博物館 コーナー

☎62-7930(図書館・博物館)

### 図書館

■開館時間/通 常・・・午前9時30分～午後6時  
火曜日・・・午前9時30分～午後7時

■URL <https://www.town.fujimi.lg.jp/site/library1/>

白抜き…休館日 ★印…イベント実施日 □…20冊貸出

## 新着おすすめ Book

★電話・webまたはカウンターでご予約ください

### 小説『下垣内教授の江戸』 青山 文平 著

東京美術学校の発足に携わり、帝国博物館でも要職を務めるなど、「日本美術」の目利きと称された下垣内邦雄が、1931年に亡くなった。思い起こされるのは、ある新聞記者による4年前の単独取材。美術に関する質問のあと、下垣内教授は自らの半生について語り始める。「俺は人を斬ろうとしたことがあるんだよ」。

幕末から戦前までを駆け抜けた、日本美術家の生涯。

	日	月	火	水	木	金	土
2月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	
3月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					



富士見町図書館HP

## おはなし会(火曜日)

- 2月 4日 赤ちゃんのおはなし 午前11時～
- 11日 ねこのおはなし
- 18日 ひなまつり工作・誕生会
- 25日 休館日

## おはなし会(土曜日) 「ふじみ子どもの本の会」ほか

- 2月 1日 雪のおはなし 午前11時～
- 8日 お菓子のおはなし
- 15日 あたたかいおはなし
- 22日 英語のおはなし会

## 図書館イベント情報

### ●2月23日(日) 富士見の日イベント 「古本市」

図書館で不要となった本をおゆずりします

時 間：①午前10時00分～正午

②午後1時00分～午後3時

会 場：コミュニティ・プラザ 2階 大会議室

持ち物：お持ち帰り用の袋

申 込：不要

問合せ：富士見町図書館 ☎62-7930

■場 所 富士見町高原のミュージアム(コミ・プラ2階)

■開館時間 午前10時～午後5時(入館 午後4時30分まで)

■休 館 日 月曜日(月曜が祝日の場合は翌日)、祝日の翌日(土日祝の場合は開館)

■入館料 大人 300円、子ども150円

諏訪地域の小中学生は無料

⇒右の招待券を切り取ってお持ちください。  
町内1家族まで無料にてご覧いただけます。

博物館企画展  
招待券